

北九州市立旧百三十銀行ギャラリー 第3回芸術文化施設指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月10日(木) 9:30~12:00
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎10階 10C会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 井上構成員、井端構成員、小竹構成員、
小林構成員、和田構成員
(事務局) 都市ブランド創造局総務文化部文化芸術担当課長、
施設係長、担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明。
- 応募団体から提案概要に関してプレゼンテーション及びヒアリングを実施。

【ACE・文化財を守る会共同事業体】

(構成員) 若松(図書館)の島郷(分館)や志井のファミリープールの指定管理者も務めており、令和5年度の決算書を確認すると収入も支出も前期より倍増しているが、今回旧百三十銀行ギャラリーの指定管理者も新たに担うことになれば、人員配置は大丈夫か。

(応募団体) 運営体制は問題ないと考えている。人員配置については、アドベンチャープールや島郷の関係で人員を大幅に増員しているため、余剰している人員が担うことを想定している。指定管理施設や公共施設に従事しているので、維持管理や受付の対応は問題ないと考えており、ソフト事業については、ACE本体と守る会職員が運営する予定である。

(構成員) 通勤途中で旧百三十銀行ギャラリーの前を通るが、一年を通して貸館の利用がない日が多いと感じている。たまに催しがある際は、何をしているのか気になっているが、看板もなく、広告もないため分からないまま通り過ぎてしまっている。広告面について、なにか工夫があればと感じている。年間を通して常設に近い状態で、常に活気のある場となってくればありがたいと思う。(ACEさんのソフト事業は)中学生を対象としたものか。

(応募団体) ソフト事業のメインは小学生である。学校部活動を地域に移行する取り組みを教育委員会から拠点事業で受けている。

(構成員) 中学生のスポーツクラブの地域移行を、逆に今度は、文化的な面の地域移行のようなものを実施して、旧百三十銀行ギャラリーの展示室を活

用するなど、今後の活用方法を検討していただきたい。

(構 成 員) 利用日数の数値目標は、140、145 日程度となっているが、現状の年間利用日数はどの程度か。

(応募団体) 大体 4 割程度である。もともと八幡には北九州で最初のデパートがあり、製鉄所の門前町、南門があったが、現在は門も稼働しておらず、人の出入りが少なくなっている。都心のように人通りがあれば、気軽に入ることができるが、今回の指定管理期間 6 年間を通して、様々な広報活動を実施したものの、ここに来る方は、立ち寄るのではなく、目的を持って来られる方がほとんどであると感じている。学校への働きかけも以前実施したが、コロナ渦もあり、何より学校は校外学習については慎重に実施したいとの姿勢から、なかなかうまくいっていない現状である。しかし、貸館スペース以外の空いた部屋で常設展示を実施する等、常に何か見ることができるような取り組みを実施したいと考えており、先ほど提案させていただいたところである。

(構 成 員) 稼働率について、声掛けなどの多くの取り組みを実施した上でのこれまでの実績である 4 割を最低ラインと設定されているが、そこにあるから来てもらえるというだけでは難しいと思うので、今後どのように取り組む予定か教えていただきたい。また、今回北九州スポーツクラブ ACE と共同体を組まれており、それぞれの得意分野を活かすとおっしゃられている。現在の指定管理者である北九州市の文化財を守る会については、これまでの取り組みもあり、概ね把握しているが、北九州スポーツクラブ ACE の得意分野を今後どのように活かす予定か教えていただきたい。

(応募団体) 一点目の稼働率については、例えばアーティストが展示会を開く際に、前後を取られたうえでその期間が稼働している、といったように数えている。建物が文化財であるので、看板を立てるのが難しいこと、また西本町ランプができたことから完全に道路から隠れる位置にあるため、定期的な事業を行いたいと思っている。例えば、月に 1 回子ども食堂を実施したり、大学生の利用を促す目的で開館時間を延長し、18 時閉館でなく、夜間の利用率をあげることを考えている。また、前回とは異なる点として、稼働日数も目標値を出すことになっているので、自治会会議などの地域利用をお願いし、ただ来場者を増やすのではなく、地域にとって大事な施設としていくことが重要と考えている。

二点目の北九州スポーツクラブ ACE については、法人設立当初は、ジュニアスポーツの教室を開催したりしていたが、現在は国のスポーツ振興基本計画に基づき、スポーツの定義を幅広く考えて、みなさんの健康や QOL を維持すること等を事業とし、体験活動やコンサル業務などを主力事業として取り組んでいる。そのような中で指定管理に応募した経緯としては、年間の事業予算を立てやすくするためである。指定管理期間の中で貢献していけるように人員配置を含め事業を組み立てたいと感じている。最初は全部再委託を行う等の運営方法をとっていたが、いろいろな会社から採択を受けることで、様々な管理の方法が分かり、その

中で一番良いと思うところを今回の指定管理に使わせていただければと思っており、維持管理については自信を持っている。一番の強みとしては、その内容に合わせて、色々変わることができる点である。

(構成員) 先ほどの話と重複するが、施設の立地が分かりにくくなったことから、今後どのように考えているのか教えてほしい。また、広報について先ほども意見があったが、何をしているのか分からない。もちろん文化財であるため、どのあたりまでされていたのか、またこれ以上はできないのか。考えを教えてほしい。

(応募団体) 今年からは、一度利用された方々にSNSを通じて催し物の案内を行っている。ほかは、ホームページやメールでの案内を実施している。また、JR八幡駅に協力いただき、JRウォークラリーの立寄り地にしてもらったりしている。現状では、名前を知らない方が大半であるものの、一度利用された方は気に入ってくださる方が多い。三味線やお琴の講習を募集した際は、高齢者の方から多くの募集があった。そのような活動をしながら、高齢者の方々にもっと多く利用していただくことを考えている。土日は貸館で多くの催し物が実施できるが、平日は集客が難しいため、北九州の文化を継承するような形で、広めていければと思っている。

(構成員) 直接周知していくということか。

(応募団体) SNSの有名インフルエンサーやインスタグラマーのような方々の中で、1、2万人のフォロワーを持っている、我々と仲の良い方がいらっしゃるため、そのような方に投稿していただき、地道にしていくしかない。

(構成員) こちらが本当に気になったときしか行かないから、常に世の中に印象が知れ渡るとというのが一番よい。

(応募団体) 提案書にも書いたが、ホームページに360度ビューをつけるなど、できるところはやっていきたい。

【株式会社COLT(コルト)】

(構成員) 北九州で漫画という文化が確立されている中で新しい試みであり興味深く感じた。一方で、旧百三銀行ギャラリーを守るための管理面について、日本施設協会と具体的にどのように連携を高めていくのか。また、継承について何か実績があるのか。もう1点は管理面の収支計画書のところで、提案の中にもあったが、自主的に色々なことを弾力化してやっていくということだったが、例えば清掃についての支出が少ないような気がして不安に思っていた。具体的にはどういったところで管理面を強化するのか。

(応募団体) 日本施設協会は図書館やスポーツ施設をされていて、図書館で漫画を教えるといったところで全面協力する代わりに、我々が弱い警備と、清掃や管理のやり方を教えてもらいたいと考えており、しっかり進めていきたい。

(構成員) そうすると少しコストを抑えられたりするのか。

(応募団体) そういった形で抑えたいという思いはある。清掃については、古民家

再生プロジェクトで陸奥A子のギャラリーをやっているが、手弁当でやっているの、自分たちでできるのではと思っている。稼働率が4割で6割空いているので、定期清掃を人に任せるとするのは、若干怠慢ではないかという思いもあって組ませてもらった。ただ実際やってみて、お金がかかる状況が発生するのであれば、コルトの責任においてやらせていただきたいと思っている。

(構成員) とても魅力的な提案だと思うが、いくつかお尋ねしたい。地域との関わりについて、障害者との連携、子どもたちや子育て層との連携はどう考えているか。また社会貢献のところで、雇用拡大の配慮ということで、ひきこもりの若者やひきこもり女子と連携して、社会参加を促すと書いてあるが、具体的に何かプランがあれば教えていただきたい。

(応募団体) まず引きこもりについて、女子の引きこもりの会というのが今注目されている。彼女たちは今当社のアートの絵を塗っており、絵を描くことで社会参加している。コミュニケーションが難しい方が、まず漫画を手伝い、人に伝えるということで、一歩踏み出すためにここを使うべきと考えている。アートの人を採用することもできるが、運営で入れていきたい。そしてSNSの力がある。

子育ては、こどもの館関係をずっとやっており、理事長をよく存じている。子育て交流プラザ、漫画ミュージアム、こどもの館に相談に来られる方、もしくはそこで遊んでいる方、両方に合わせて色々なノウハウをお持ちのため、その団体に我々を紹介してもらい、1つ1つ進めていきたい。

また、老人クラブ連合会の会長に、会員の作品の発表会での利用について打診をし、協力するとの了解をいただいた。

障害者団体についても「みんなの職場研究会」という、障害者でも健常者と同等の給料を払おうといった団体の理事もやっているため、そういった団体を通しながら、この旧百三十銀行をいろんな人に知っていただき、いろんなところに発信していきたいと考えている。

(構成員) ギャラリーの立地がわかりにくく行きにくい場所である、何の事業が開催されているかわからない、はっきりわかるような大きな施設の看板がない、ということで、非常に不利な状況の会場と思う。そんな中、漫画を中心として新しい価値観の創造拠点として頑張りたいということで、非常に期待はしているが、ギャラリーを活用するのに漫画一本では厳しいような気がしている。特に漫画については、中学生の部活動地域移行もあるので、地域移行の部活動の場としてある程度提供するのもいいかと思うが、それだけでは、催し物についての内容を吟味し、努力されないと感じるかと思う。それが稼働率や収入にも関わっていくので、未知な点はあるが、頑張ってもらいたいと期待している。

(応募団体) 提案書の中の稼働率40%については、一般的な利用でいきたいと考えている。自分の提案は40%をキープし、それ以上を漫画でキープするという思いがある。

(構成員) 一般の稼働率を考えたとき、主にどのような催物をイメージとして描か

れているか。

(応募団体) 踊りや手話などのおよそ 110 団体で構成された市職員芸人バンクなどにお声がけし協力を依頼する。また、パンフレットを作成し営業を行う。漫画で 1 年持つのかという委員のご意見はもっともであり、徐々に漫画の比率を上げていき、最終的には半々くらいを考えている。そして市民に、何か面白いことをやっている、風が吹いているといったイメージを持ってもらう。

(構 成 員) この場所をご存じの方もいれば、そうじゃない方もいる。何か古い建物が建っているくらいにしか思わない方がほとんどだと思う。そんな中、今日の提案を拝見し、周知していく、新しい風を吹かせるといったところが面白いと思う。あとは今言われた懸念されている部分をうまく補っていけるようであれば、化けるのではないかという気がする。

(応募団体) 実現できるかはわからないが、辰野金吾さんが作られた東京駅や西日本工業倶楽部と連携し、辰野金吾展などの企画をやってみたいと考えている。また、マレーシアやタイ、香港等のアジアの展示会にもパンフレットを持って PR できないかと考えている。

○ 構成員は、「ACE・文化財を守る会共同事業体」「株式会社COLT」提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。

その後、事務局が合計得点を発表し、検討会としての検討結果について協議

(構 成 員) ACE・文化財を守る会共同事業体は共同事業体としての特質を十分生かして、役割や責任分担もしっかり明確に示されているのでよいと思う。北九州の芸術文化の向上の場として、幅広いジャンルの中で場を利用してもらえるのではないかと、点数を付けさせていただいた。一方、漫画を中心にしたコルトは大変意欲的なこともわかるし、新しい創造拠点としての期待も十分にあるが、年間を通して本当にイベントを継続できるのかという心配を持った。収支に響く可能性があるため心配という点を考慮して、配点させていただいた。

(構 成 員) 私は新しい試みとしてコルトに傾斜させていただいた。文化財を守る会は、基本的に管理面等について盤石なものがあり、新しい ACE は、子ども向けの事業やスポーツを中心とした事業などの試みが魅力的と感じた。逆にコルトの場合は漫画に関しては実績があり、また営業力もあるというところは評価をしたいと思い、適性の(1)は満点を入れた。あとはやはり管理面については日本施設協会と協力するとはいえ、若干不安が残るところと思いながらも、株式会社なので自主事業の収益のところは一定のカバーができるのかと思う。管理面では若干不安は残るが、取り組みとしてはとても期待でき、魅力的なものだった。

(構 成 員) 私もコルトをかなり推した。ACE・文化財を守る会共同事業体は手堅く、また、地域の拠点として機能させるということは評価できる。ただ利用時間の延長や光熱水費の負担等、今後調整が必要な条例等の関係など、未知な部分もあるため、実現の可能性がどうなのかとかいうところはある

が、間違いのない提案という印象である。対して、コルトは本当にユニークで面白いと思った。いろいろな地域や団体とのネットワークがあるようなので、プラスアルファの一步先のところが期待できるのではないかとということ、やはり北九州は外から見たとき、漫画やポップカルチャーの拠点として注目度も高いと思うので、外からの注目も期待できるのではないかと。確かに管理面で不安要素はあるが、それを上回る効果を期待できると思い配点させていただいた。

(構成員) ACE・文化財を守る会共同事業体は、本当に手堅いという印象だが、市長も動くということを掲げているので、個人的にはコルトにかなり高い期待を持っている。期待値がかなり大きく面白くなると思う。結果は1年で見るのか期間で見るのかいろいろあると思うが、コルトは株式会社なので、金銭的な部分でも補っていいのではないかと考えている。

(構成員) 私も評価の点数としては、結局両方とも同じくらいの点数になってしまったが、期待としてはコルトの方が高い。文化財を守る会はACEと一緒にやるということで、今までと違う展開を期待できると考えたが、今まで考えている範疇で、コルトの新しい発想は、どの構成員も言ったように管理面などで確かに不安はあるが、新しい事に踏み出す新たな風に期待したいという気持ちになった。またひきこもり支援団体との連携という点は、今現状としてはひきこもりの人が増えているので、そういう人たちがまた自分たちの力を発揮し、さらに社会貢献ができるという道が開ける、しかも北九州らしいという点に大変注目した。

(構成員) 有効性の(2)利用者の満足度向上のところだが、アンケートを中心とした満足度調査など非常に内容が薄く、クレーム対応に関して非常に不安を感じた。効率性の(3)指定管理料及び収入についても、未知数な点が多く不安が残る。

(構成員) 指定管理料は確かに収支の内訳を見ると、若干数字が粗いと思う。ACE・文化財を守る会共同事業体は年間で98万の清掃業務経費を上げているところ、コルトは6万円という自主的な清掃の数字で上がっている。コルトは陸奥A子のギャラリーの管理に関しては自分たちで清掃を行っており、あまり経費をかけないようにしている。清掃経費で約100万円近い開きがあるが、指定管理料も何十万円か差がある形でコルトは提出している。ただ実際清掃というところを上乗せすると、逆にコルトの方が高くなるということもあり、若干不安に感じている。株式会社で自主事業の方で稼いでいるから、どちらかという若干低めに出しておいて、本業で賄うという心づもりがあるから、このような数字になっている現状があるのではないかと。こどもの館やほかの図書館業務での知恵やノウハウをもらいながらやっていくという点では、多少不安があると言っても、何とかやっていけるのではないかと。今聞かせる限りは、コルトの魅力や新しい風というところに若干流れているので、冷静に考えるとどう判断すべきか限られた時間で判断するのは難しい。

(構成員) しかしながら期待感も大いにある。展示場として、活用方法について尋ねたが、高齢者などの展示をしたいとのことだった。いろいろな分野を行

おうと努力をしていると思うが、最近はその地域でも市民センターや生涯学習センターなどがたくさんあり、高齢者や子どもたちの作品展示はそこで全部やっているの、地域に密着した展示をわざわざ旧百三十銀行ギャラリーに持ってこなくてもよいのではないか。それよりも本当に魅力あるまちづくりのアイデアを提供してくれればよかったという気持ちがある。

(構 成 員) コルトのクレーム対応が不安という話があったが、クレーム対応は普通のこと、業務を行うにあたってゼロということはない。コルトは対応力があり、相手先に寄り添った対応をするのではないかと。施設の業務に当たっては、一般的なクレーム対応などは心配ないと思う。

(構 成 員) いろいろなところと仕事をしているし、引きこもりの支援などコミュニケーションが大切なところとも一緒にやっけていこうとしているのであまり心配ないと思う。

(構 成 員) 社長自らプレイヤーとして動いており、会社としても成長期で活気を感じる。

(構 成 員) 当検討会としては、総合得点が最も高く、また、「適性」並びに「適正性」の項目で評価の高かった「株式会社COLT」が、旧百三十銀行ギャラリーの指定管理者としてふさわしいという検討結果とする。ただし、指定管理者として維持管理面などで不安は残るが、新しい事に踏み出す新たな風に期待したい。

(構 成 員) 当検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

○ 以上の意見交換を行った後、検討会を終了した。